

令和3年度授業改善推進プラン

	授業における課題や学力調査資料から見た課題	授業改善のための具体策
国語	授業規律における基本的な態度が身につけていない。聞く能力にかなりの課題がある。解答形式についても選択、短答に比べて記述の正答率は低い。書くことについて苦手意識をもつ生徒が多いことは授業の様子からも窺える。主語と述語を適切に対応させて書いたり、一文を短くして分かりやすく書いたりする基礎的な力が不足しているため、そこを補う必要がある。	単元ごとに短作文の課題を取り入れ、書く作業に慣れさせ、さらに本人にフィードバックすることで生徒が自分の課題や成長を客観的に把握でき、語彙の増加につながる意識を得るよう配慮する。読解の指導と関連づけて、読み取った内容を自分の言葉で再構成する活動を授業内で取り入れ、読む力とともに書く力の向上に努める。
社会	・教科書の黒字程度の基本的な用語が身につけていない生徒が見受けられる。 ・定期考査の文章問題に空欄のままの生徒がいる。文章にまとめる力に課題が見られる。	・小テストを実施し用語などの基礎基本の徹底を行う。 ・普段の授業から文章でまとめる作業や、発表する力を育成するために長期休業中に調べ学習を行い、発表する機会を作っていく。
数学	・授業に対する意欲の差が激しい。小学校からの苦手意識が強い生徒多数。さらに分数の問題になると、途端に「わからない」を連発する生徒が目立つ。また、模範解答の書かれた黒板を写さない生徒も多く、書くことへの苦痛を感じている生徒がいる。 ・家庭学習も身に付いていない生徒が多い。宿題がないと、勉強しない生徒もいる。	・数学は、手で書いて解き方を身に付けることを大切に、例題で説明した解き方と同じように解くことを意識させる。解けるようになる喜びを感じられるように、スモールステップしながら授業を行う。 ・家庭学習については、問題集を活用しながら宿題を設定する。授業の最初に復習問題を出題し、基礎力の定着を目指す。
理科	・授業に前向きに取り組む生徒が多い。 ・実験では説明を集中して聞けていないので、間違った操作をすることがある。 ・漢字などがわからないのでノートを書くのに時間がかかる生徒がいる。 ・コロナによる生徒実験の安全性を考える。	・事例を多く提示し、興味関心が今以上にもてるようにする。 ・実験操作について今以上にわかりやすく説明できるようにする。 ・プリントの工夫をし、今以上に書き込みしやすいようにする。 ・演習実験と生徒が取り組める実験を精査する。
音楽	・授業規律の定着に時間がかかった。・書く能力の能力差激しい。語彙がすくない。 ・マスク着用下での歌唱練習ではあるが、楽しく取り組むことができる。 ・時間制限下でのアロトリコーダー演奏ではあるが、意欲的に取り組む生徒がほとんどである。 ・集中時間は短い生徒が多い。 ・視覚情報はよく見る。消えてなくなる音や説明を聞き逃す生徒が多い。	・本時の目標と流れを、黒板の左端に書いておき、始業にそれを使って見通しをもたせたり、終業で本時の振り返りをする。 ・器楽授業でデジタル教科書でくり返し、技法を確認させたり、技術の定着をめざす。鑑賞授業では、映像を使用した鑑賞授業を行い、音楽の良さに気付かせる。 ・重点項目は板書事項を消さずに残しておく。
美術	・授業規律が身につかず、授業の内容を理解し切れず集中力に欠ける生徒が一部見受けられる。 ・制作に関して意欲的に活動する生徒が多い。 ・作品を鑑賞して言葉で表す力が不十分な生徒が多い。	・全体指導の後に個人指導を行い、学習の理解度によって効果的なアドバイスをを行う。 ・制作時に質問されやすいことは授業開始時に全体に周知しておく。 ・他者との話し合いの場を増やして、言葉で表す力を身に付けさせる。話し合いを通して課題解決ができるよう指導方法を工夫する。
保健体育	・授業の取り組み方、テスト勉強の仕方を理解していない生徒が多い。授業への意欲は低くはないが、集中力が欠けていて、話を聞けない生徒が一部いる。 ・授業規律は最初の授業と比べると見違えるほど良くなったが、話の聞き方、言葉の使い方に課題がある生徒が一部いる。 ・学習カードの重要性を未だ理解しておらず、未提出や適当に書いて提出する生徒が多い。	・良い授業の受け方をしている生徒は適時褒め、また授業の終わりや始まりの時間に他の生徒に紹介し、良い授業態度を具体的に理解させる。テスト前には、ポイントを説明するだけでなく、勉強の仕方でも説明する。 ・学習カードの記入事項に周りの生徒の様子や課題を書く欄を作り、生徒がより主体的に授業に取り組める工夫をする。
技術・家庭	・授業規律やマナーなどの定着が難しい場面があった。また、聴覚による情報だけでは一度に内容を理解する事が難しい場面が多いため、視覚支援が有効な生徒が多い。 ・日常生活における技術の存在や在りようについて、非常に強い興味を持っている生徒が多い。ただし、それらが今の学習内容とどう結びつくかまでは理解が難しい場合がある。	・掲示物やICT機器などの視覚支援の手段を用い、授業のねらいや内容がより伝わるよう工夫する。また、実習授業においては、実際の工具や材料を用いた例示を行う。 ・学習内容が日常生活とどのような点で結びつくのか、具体的な製品や題材の例を出して示す。また、授業内で学んだ技術を活かす事ができる場面を積極的に創出する。
外国語(英語)	基本的な授業規律ができない生徒が見られる。小学校での英語活動の延長で「話す」「聞く」活動へはおおむね意欲的に取り組んでいる。常活動で基本文型のドリル練習を行い、文法的知識の定着を図っている。しかし定期考査の結果を見ると、既習事項への理解力の差が大きく、特に「読む」「書く」ことに苦手意識をもつ生徒が多い傾向がみられる。	授業開始時に学習準備を徹底させることで、授業規律を意識し学習に向かわせる。既習の文や語彙を使って表現・発表へ意欲をもたせるために、パフォーマンステストを定期的に行う。そのためにも常活動でのドリル練習や定期的な単語テストなどを行い、語彙力、文章力をつける。教科書の音読練習を徹底する。
道徳	授業へはおおむね真面目に取り組む、課題に真摯に向き合っている様子が見られる。話し合い活動では、意欲的に発言する生徒と、なかなか自分の言葉で考えを表現できない生徒に分かれる。ただし、小グループであれば発言できたり、ワークシートへはよく記述できる生徒もいる。自分の考えを他者に伝えたり、他者の考えを聞いて考えを深めたりすることに課題が見られる。	他人事ではなく、自分のこととして教材を捉えて考えられるような授業づくりを目指す。そのために道徳的価値観へ迫る行程、発問や方法を工夫していく。また教室で生徒が安心して自分の考えを話し「対話」できる人間関係を築いていくことを基本とし、多様な考えから自分の考えを深め広げていく。
総合的な学習の時間	タブレットを活用した授業に対して、かなり前向きに取り組む様子が見られる。ただし題材のねらいを理解しておらず、学習活動に対する目的意識が希薄な生徒もいる。「何を」「どのように」「そして」「どうして」という問題意識をもたせたい。また、指示がうまく伝わらず、授業中にどうしていいかわからなくなってしまう生徒もみられる。	『地域』『人権』『進路』の内容に関して、1人ひとりの生徒が問題意識をもち、課題解決力の向上を図る。学習活動において効果的な手段の一つとしてタブレットを積極的に活用する。3年間というスパンで計画的に多様な内容を取り入れて学習させていく。今後は、ゲストティーチャーの講義やグループでの話し合い活動なども取り入れていく。